# 創意工夫こらし目一杯の仕事を

あけましておめでとうございます。新春にあたり、市民の皆様方のご健勝をお喜び申し上げるとともに、今年が平和で明るい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、本市は、昨年、市制三十五周年という一つの節目を迎えさせていただきました。ご承知のように、これといった特別な記念事業は用意しなかったわけでありますが、それでも八月にキャッチフレーズの選定、十月に市庁舎着工、十一月に北上ポンプ場並びに宝田橋竣工、そして十二月には『市史』発刊と、後世に残るべき事業もいくつか手がけることができました。これも、ひとえに市民の皆様方のご支援、ご協力のおかげと心より深く感謝を申し上げる次第です。

ところで、迎えた昭和六十二年は、円高不況の深化、産業構造調整の一層の強化等、より厳しい環境が予想されております。それも、国より地方に大きな影響が心配されている状況です。しかし、そうであればあるほど、まちづくりには一瞬の停滞も許されないわけでありましょう。

今年は、昨年に引き続いて市庁舎の建設が進められますが、事業規模において、この市庁舎建設にほぼ匹敵する懸案の「ごみ焼却炉」建設事業に着手したいと思っています。また、古田地内にその位置が決まった特別養護老人ホームも、昭和六十三年オープンをめざして、今年着工の予定です。

財政的に厳しい状態はあい変わらずですが、ご紹介したように目一杯の仕事を進める決意に変わりはありません。今年も市政へのご参加とご協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。

一九八七年

新津市長　斎藤富雄

# 賀ご

# 研究交流を深めまちの活性化へ

市民の皆さん、新年おめでとうございます。昭和六十二年の新春を迎えるにあたり、皆さんのご清福とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

私は、議長就任以来、微力ではありますが常に議会の円満な運営と市政の伸展を第一義として誠心誠意努力してまいり、おかげをもちまして大過なく越年することができました。これもひとえに皆さんのご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

昨年は、円高不況にあえぐ中で国内経済は低迷を続け、一向に内需拡大の兆しが見られないまま推移してまいりました。そうした中で新津市は新総合開発計画にのっとり、限られた財源を効率的に使い、積極的に諸施策の推進に努力し、所期の目的を達成しえましたことは、市民の皆さんとともに同慶に堪えないところであります。

世はまさに高齢化、情報化、国際化の新しい時代に入り、その対応を求められております。今年は、前年にも増して市民生活に密着した諸事業を計画的に実行することにより市民の福祉向上を図ることはもちろんでありますが、新津の個性豊かな活力あるまちづくりを、いかなる手法で形づくれば良いかを探究することも、我々に課せられた重大な責務であると深く肝に銘じております。

本年も、国、地方公共団体を問わず、厳しい行財政下におかれることは必至のことと思いますが、国及び県の動向等を注意深く見守りながら、市勢躍進のため全力を傾注する所存であります。皆さんの心からのご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。

昭和六十二年元旦

新津市議会議長　市島卓也

お買物、ご用命は市内で

謹賀新年
エスプリ・ド・パリ
ウンガロ陶磁器コレクション　¥3,000より
美術品 贈答品 業務用食器
中野せともの店
本町4丁目　☎22−1086

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6−12　TEL(24)5122



# 気力と精神力で日本百名山を登頂

## 関口四郎さん（草水町三・六十七歳）

幌尻岳（2052m・北海道）山頂の関口さん

十月二日、乗鞍岳（三、〇二六㍍）に登頂され、深田久弥の名著『日本百名山』を踏破された関口四郎さんにお話をうかがいましたので、次にご紹介します。

＊　＊　＊

乗鞍岳山頂は吹雪まじりの悪天候で、関口さんは、百名山登頂について特別な感慨はなかったそうですが、「これで終わったんだ」という満足感を味わうことができたといいます。

関口さんの登山歴は、昭和四十五年の夏、五十一歳のときに仕事の仲間に誘われて安達太郎山に登られたのが最初です。家業の忙しさも手伝い、その後十年間は山に登らず、少しゆとりができた六十一歳になった五十五年から登山を再開。旅行社主催の富士山登山をはじめ、月山、火打山に登られ、登山の醍醐味を満喫され、山に魅了されるようになられたといいます。

その後、五十七年九月に新潟市の看護婦さんの百名山登頂の新聞記事を読まれたことと、飯豊山に登って自信がついたことなどがきっかけとなり、「百名山に挑戦してみよう」と決意されたそうです。この間に登られたのは、百名山のうちの七峰。翌五十八年に十三峰、五十九年に二十九峰、そして昨年は三十二峰という超ハイペースで百名山征服への道を登りつめ、今年、残りの十九峰を登頂されて念願の百名山登頂を遂げられました。北は北海道の利尻岳から南は九州屋久島の宮ノ浦岳まで、日本列島を縦断しての快挙です。

一つ一つの山にそれぞれの思い出があり、話もつきません。北海道の十勝岳やトムラウシ山などでヒグマの出没に備えて神経をとがらせたことや、雨を避けるために飛び込んだ避難小屋が悪く、湿気によって神経痛を病むなど、トラブルも数知れず、やめようと思ったこともしばしば。しかも、関口さんは、百名山のほとんどを単独で登頂されており、気力と精神力、そして孤独との闘いだったそうですが、この間、奥さんや家族の協力をはじめ、同じ登山仲間の励ましなどに大いに力づけられ、これまで頑張ってこられたのだともいいます。今でも、三日か四日に一回のペースで五頭山や菱ケ岳などに登っておられるそうです。今後は、奥さんと一緒に登山をしたり、今までの登山記録を整理したりで、「生涯、登山とは離れられませんよ」と笑っておられます。

また、関口さんは、冬期間、秋葉山を散策する人のために熊沢公園までの道をつけ、公園内に二月いっぱいテントを張って休憩所を提供されています。山の仲間も多数集まるそうです。皆さんも、一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

ウサギは身近な動物で、いまでも野生のウサギをよく見かけますし、食肉用、毛用、毛皮用、ペットなどとして広く飼われています。また、昔からあるいろいろな物語にもウサギがよく登場しています。イソップ童話の「ウサギとカメ」や日本の昔話の「かちかち山」「因幡の白ウサギ」などが有名です。

みなさんは、これらの物語に登場するウサギについてどんなイメージをお持ちでしょうか。

## 今年は卯（ウサギ）年

「ウサギとカメ」のウサギは、油断して昼寝をしてしまうので、自信家か、それともなまけ者。「かちかち山」では、おじいさんのために敵うちをするので正義の味方になっていますが、タヌキをだまして背中にやけどを負わせたり、その傷に唐辛子を塗ったり、泥船に乗せたり……、ちょっと残酷すぎるようです。「因幡の白ウサギ」は、知恵を働かしてワニザメをまんまとだましたつもりが、皮をむかれて赤裸になってしまいます。こうしてみると、ウサギに対するイメージもいろいろあるようです。

生物学的にみても、ウサギはなかなかしたたか者です。砂漠、草原、森林、高地、ツンドラなどあらゆる所に住むことができ、糞を食べて反すう（一度飲み込んだものを再び食べること）の代わりにする習性があります。

また、事典にはウサギの飼育は容易で、飼育箱は幅・奥行き六十㌢、高さ四十五㌢あればいいという意味のことがでています。これが例のウサギ小屋の由来かとうなずいた次第です。

ウサギ年の今年は、国連の定めた「国際居住年」。みんながゆったりとした家に住めるようにしたいものです。

お買物、ご用命は市内で

ポンと押せば お湯が出る
すぐ点く すぐ出る すぐ消せる
指先タッチ（押す）のガス湯沸器
これで安心！
老人から 子供まで 安心して 使えます
謹賀新年
台所や洗面所に便利です
ガスショールーム　☎(22)9651